



喜多の埜

天満宮？ 天神社？

今年の元旦に、まだ中学生ぐらいの子供からこんな質問を受けました。

「同じ菅原道真さんをお祀りしているのに天満宮とか天神社とか天神宮とか何故いろいろ呼び名があるんですか？」

私は子供ながら鋭い質問に大変驚きました。多くの人はその違いについて知るすべがない事に気づき、今月はそのお話です。

天神さまこと菅原道真公は、九州大宰府にて無実の罪をさせられたまま亡くなられた後、京都が天変地異に見舞われ、これは無念の内になくなられた道真公のタタリと恐れられた朝廷が、道真公に「神さまの位」を授けてその魂を鎮めようとした。それが現在の天神信仰の原点である、北野天満宮と大宰府天満宮の由来なのですが、この神さまの位というのが「天満大自在天神」という名称で、現在の天満宮、天神社はここからその文字をとっています。

その二つの違いは明確にはないのですが、社の主祭神が天神さまだけの場合は「天満宮」、天神さま以外にも主祭神がおられる場合は「天神社」と呼ばれている場合が多いようです。ちなみに天神宮は比較的近世になってから出てきた名称のようで、元々八幡宮などの宮の名のつく神社と天神さまの祀られてる神社が合わさって出来た名称のようですが詳しい事はよくわかっていないのが実情です。

しかし、どの名称にする天神様の御神徳には変わりはなく、常に私達は見守られています。

歳寒三友

昨年は例年がない記録的な寒さで、各地で大雪の被害が出て、改めて自然の恐ろしさを目の当たりにしました。しかし、二月も中旬を過ぎれば、天神様もこよなく愛された梅の花が咲く季節となります。この梅ですが、よく松竹梅とめでたい植物の代名詞とされます。しかし、「花は桜木」というように、咲きぶりの素晴らしさを問うならば桜など他にも色々あるのに、何故梅の花なのでしょうが。

それは梅が一年で最も寒いこの季節に耐えて咲き、人々に春の訪れを先駆けて知らせるという神秘性が古代の人々の意識を引き付けた為と云われます。松も竹も梅と同じく寒さに耐え、その見目麗しい姿を見せてくれます。ゆえにこの三種を指して歳寒三友といえます。また松はその長寿、竹はまっすぐ、梅は耐えて花開く、という三徳がそなわっており、その三つを人に例えると、博学、正直、誠実の三つがあてはまり、これを三益友と言うそうです。これらの言葉は中国の孔子の論語にもある言葉であり、辛苦にも耐えて、へこたれない友こそ本当の友であると説いているのかもしれない。昨今は友人同士でも罪の擦り付け合いが横行する社会。梅の誠実に真の友の姿を教わりたいものです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ボーダフォン
ez web 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

